

<はじめに>

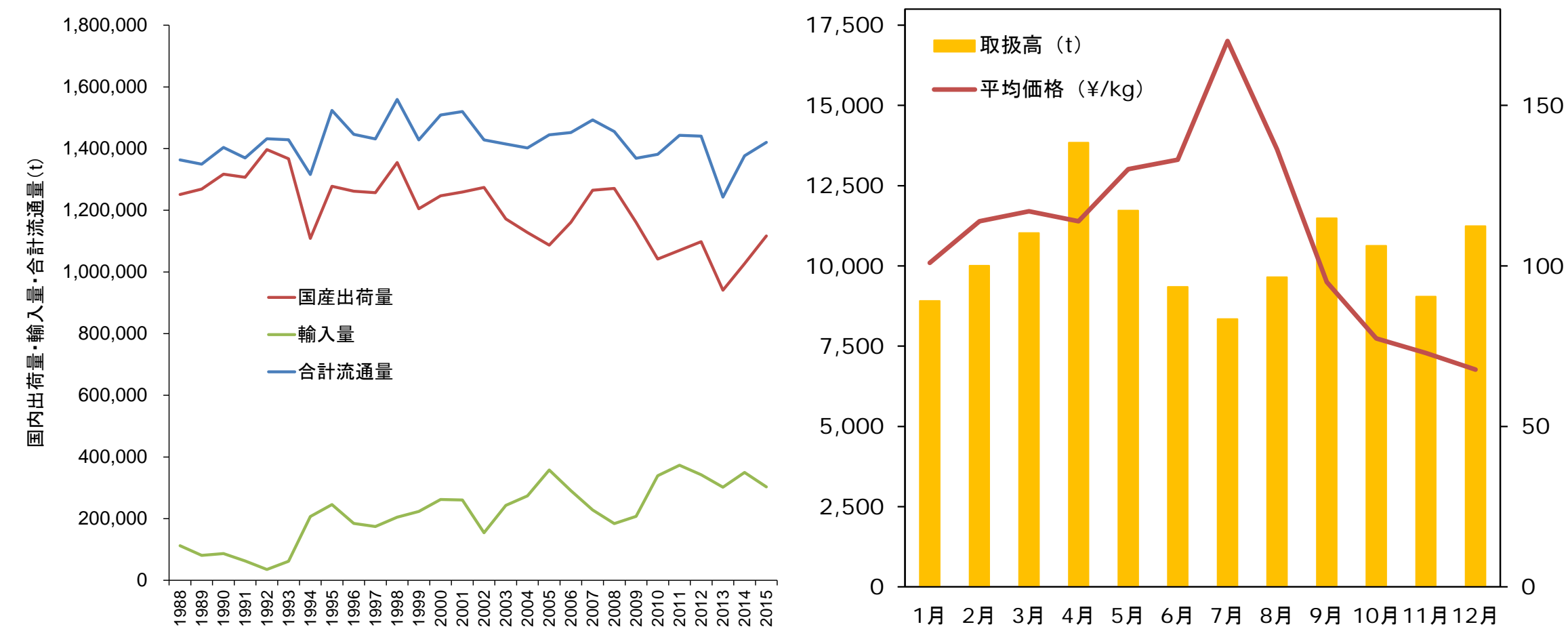
- ▶ 蓬田村では、村内未利用バイオマスたい肥を活用した高収益野菜生産を推進している
- ▶ 水田転作圃場における露地高収益品目として、タマネギの夏期端境期出荷が可能な作型の普及をめざしている



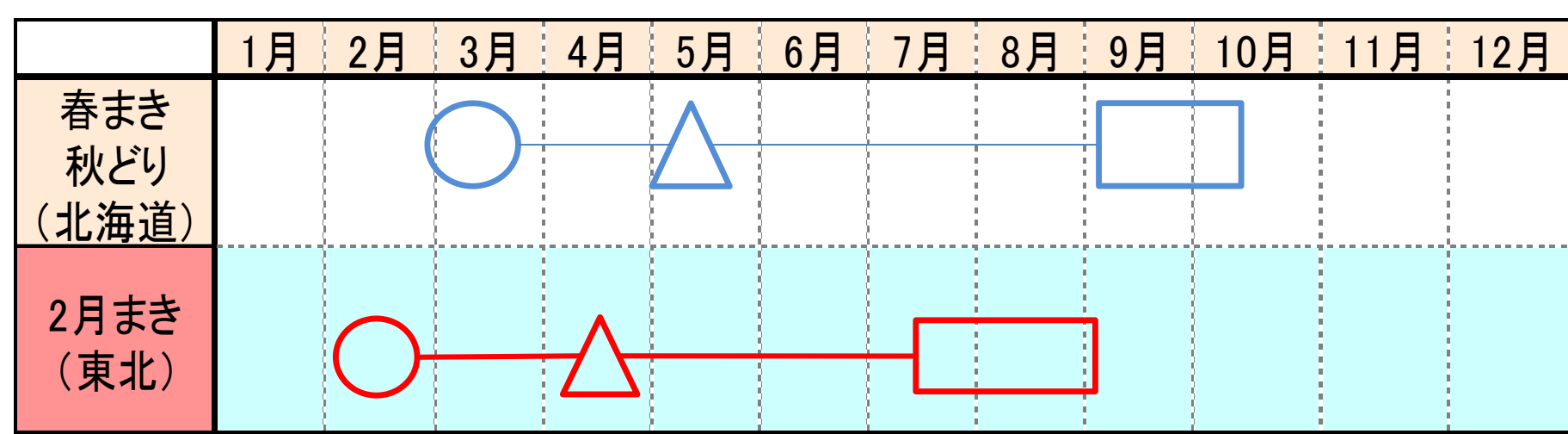
蓬田村におけるタマネギ新作型の栽培試験の様子

<タマネギの端境期出荷作型について>

- ▶ タマネギの国内需要は約年間150万トンであり、長期にわたってきわめて安定している
- ▶ 近年、春～夏場の市場シェア上位である本州暖地の作柄が不安定になっており、北海道産が収穫になる前の7～9月に国産タマネギの流通量が減る“端境期”ができ、この期間の市場価格が上昇し、輸入タマネギの急増を招いている
- ▶ 最近、弘前大学などが参画した農水省の委託研究プロジェクトにて北東北における7～8月出荷を可能とする新作型が開発された
- ▶ 蓬田村は冷涼でタマネギ栽培に適した気象条件であり、タマネギは水田転作圃場における高収益品目として期待されている
- ▶ 本研究では蓬田村の気象・土壌条件に適した品種の選定や、バイオマスたい肥の施用条件、資材の栽培技術の検討を行っている



タマネギの国内出荷量・輸入量・合計流通量の推移およびH27年の東京中央卸売市場における取扱量と平均単価



タマネギの作型(O:播種 Δ:定植 □:収穫)

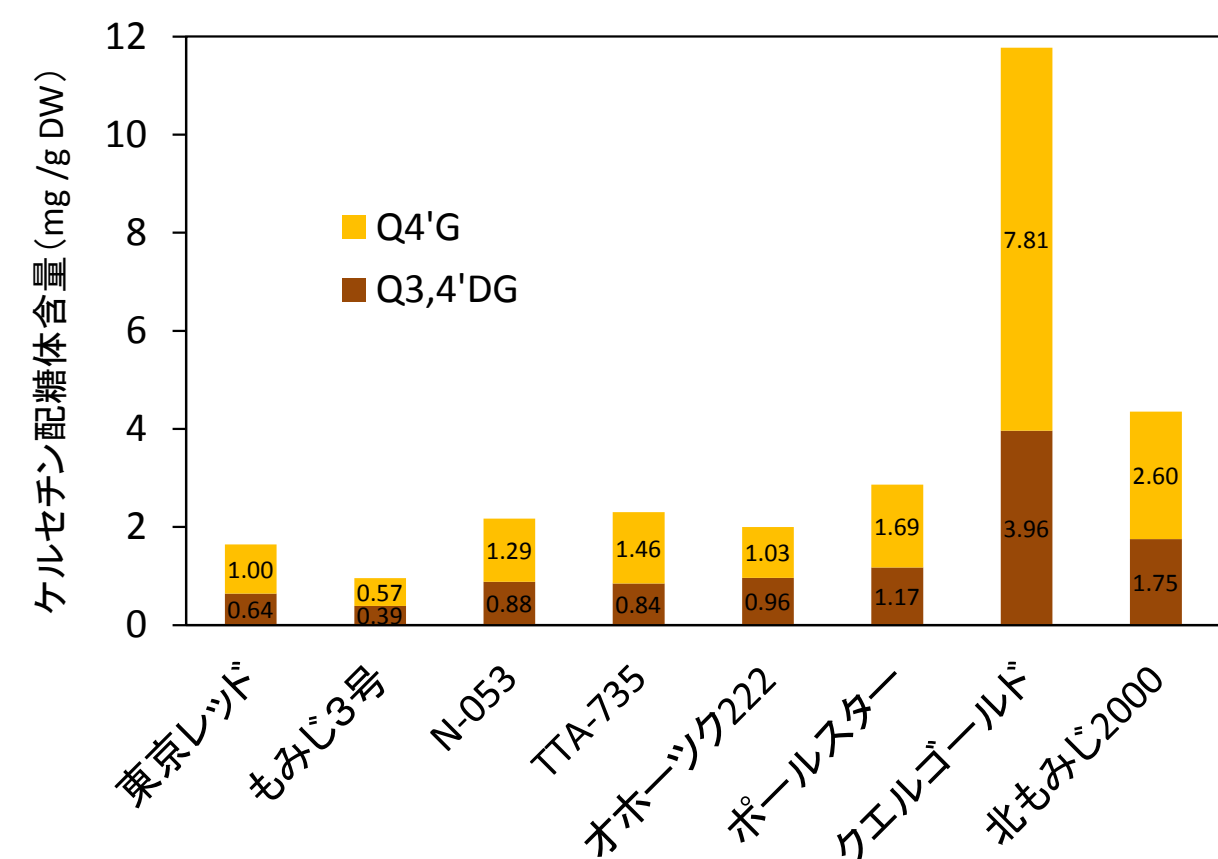
端境期の収穫・出荷を可能とする東北地方における2月まき作型の概要



弘前大学における栽培試験

表 弘前大学試験圃場における品種比較試験の結果(2015年)

品種名	倒伏日	収穫日	平均りん茎重 (g)	株立ち率 (%)	規格内率 (%)	腐敗率 (%)	規格内収量 (kg/10a)
MN-05	7月3日	7月10日	209.9	98.6	91.9	0.0	4,227
もみじ3号	7月3日	7月11日	206.9	100.0	98.6	0.0	4,534
東京レッド(赤)	7月4日	7月11日	210.7	98.6	95.9	2.8	4,304
N-053(マルソー)	7月9日	7月14日	260.4	100.0	95.9	0.0	5,549
TTA-735(ケルたま)	7月12日	7月17日	226.8	100.0	94.6	0.0	4,769
クエルゴールド	7月15日	7月26日	253.7	97.3	91.9	1.4	4,970
ホクトボール	7月16日	7月26日	305.5	100.0	94.6	0.0	6,421
ポールスター	7月17日	7月26日	202.2	93.2	100.0	14.3	3,590
オホーツク222	7月18日	7月22日	276.2	97.3	100.0	2.7	5,811
北もみじ2000	7月18日	7月26日	316.3	100.0	97.3	0.0	6,839
月輪2号	7月18日	7月26日	289.9	94.6	94.6	0.0	5,765



機能性成分のケルセチン配糖体含量における品種間差(弘前大圃場)

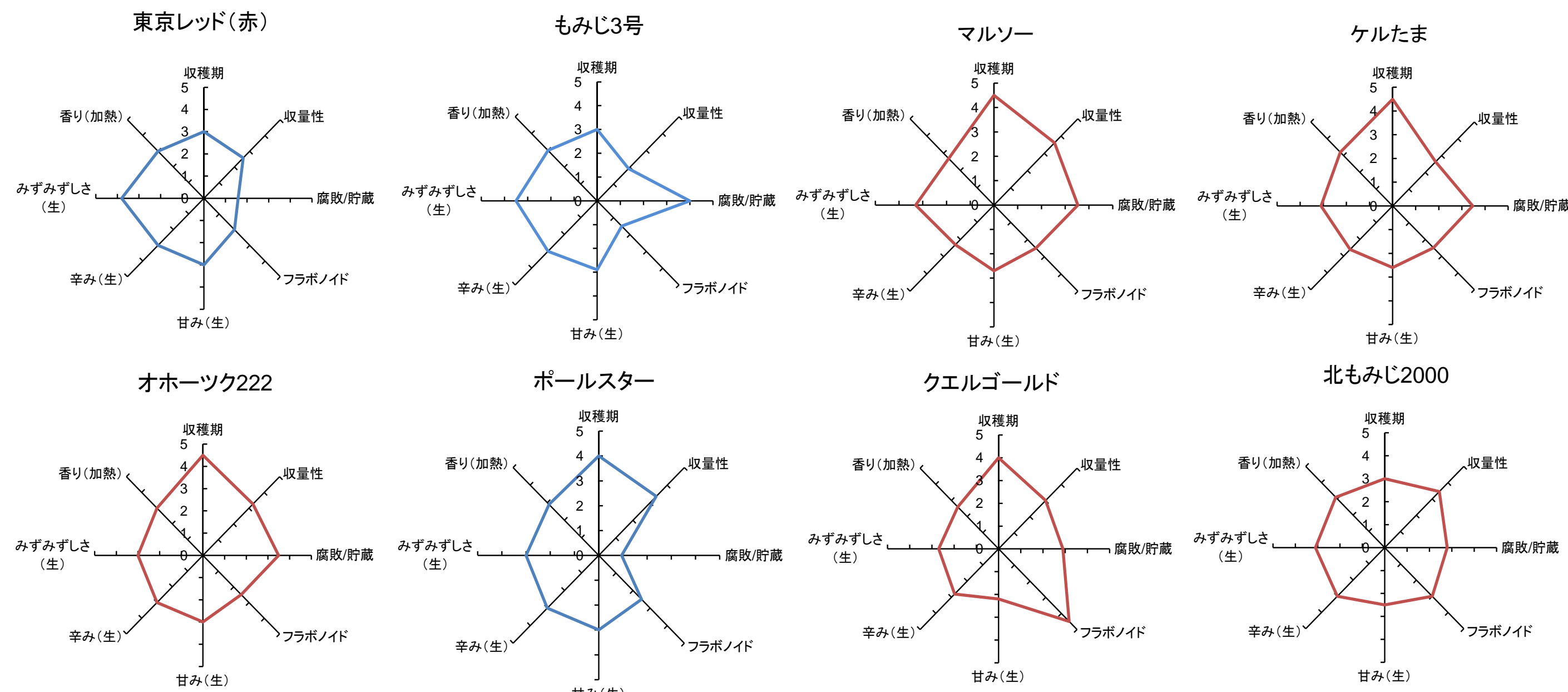
- ▶ 2月播種、4月中下旬定植で7月収穫が可能
- ▶ 多くの品種で目標収量の4t/10aを達成
- ▶ 機能性成分含量のケルセチン配糖体を多く含む品種も栽培可能



蓬田村における試験栽培の様子

<これまでの研究結果の概要および蓬田村における試験栽培の状況>

- ▶ 弘前大学における栽培試験の結果から、秋まき用品種の晩生～極晩生および春まき用品種の早生～中生品種が2月まき作型に適することが明らかとなった
- ▶ 品種ごとに糖組成や機能性成分(ケルセチン配糖体、辛み成分)の含量が大きく異なる
- ▶ 蓬田村は弘前よりも冷涼な気象条件であり、適品種の幅は弘前よりも広い可能性がある
- ▶ 3年間の蓬田村における試験栽培の結果、目標収量(4t/10a)を達成出来る品種や栽培方法をほぼ確立できた
- ▶ 現時点での蓬田村における適品種としては‘もみじ3号’、‘マルソー’があげられる
- ▶ その他にも高ケルセチン含有品種や赤タマネギなど、オリジナリティーの高い品種も作付け可能である
- ▶ 今後はより高収量、高収益な品種の選定を続けるとともに、栽培管理の省力化をはかり、生産普及の拡大をめざす
- ▶ 販売戦略やニーズに合わせたさまざまな品種を栽培できると考えられる



品種特性評価(レーダーチャート)の例

<レーダーチャートによる品種特性評価のメリット>

- ▶ 品種の特性をレーダーチャートで可視化することで、生産者がひと目でどんな品種かイメージできる
- ▶ ニーズに合わせた品種選定を行いやすい
- ▶ 消費者、ユーザー側も品種特性がわかりやすい